慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	初期マルクス研究におけるひとつの問題 : フェルダー「一八四八年の革命前夜におけるマルクスとエンゲルス」における"真正社会主義"の解釈について
Sub Title	A problem on the study of "Young Marx"
	Herwig Förder; Marx und Engels am Vorabend der Revolution : Die Ausarbeitung der politischen
	Richtlinien für die deutschen Kommunisten (1846-1848)
Author	飯田, 鼎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.3 (1962. 3) ,p.269(61)- 284(76)
JaLC DOI	10.14991/001.19620301-0061
Abstract	
Notes	社会思想史研究特集
	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19620301-
	0061

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

- 六頁。Labour's Wrongs. p. 197.) 六頁。Labour's Wrongs. p. 197.)
- ples. pp. 76-77. 訳、九一頁。Labour's Wrongs. p. 197.) 人民の減少か、あるいはより急速な資本の蓄積かである。」(Princi.2) 「人口が生活維持手段を 圧迫しつつあるとき、 唯一の救済策は、
- p. 273. 訳、三一六頁。Labour's Wrongs. p. 197.) 使用されえない資本額は全くない。」(セーからの引用。 Principles.
- (Principles. p. 263. 訳、三〇三―四頁。Labour's Wrongs. p. 197.) が働の維持に収入のより大なる部分を使用することによって増加されうる。」 「一国の富は二つの方法で増加されうる、すなわちそれは生産的
- Labour's Wrongs. p. 198.)

 Labour's Wrongs. p. 198.)
- 訳、二九九頁。Labour's Wrongs. p. 189.)の犠牲を要する商品のみが、不変なのである。」(Principles. p. 260.6)「すべての時において、 それを生産するのに骨折と労働との同一
- ちなみにジョリフはリカードのプレイにたいする影響を最小にみつい ニナカア Lacours wrongs. p. 1831

- もるローウェンソール (E. Lowenthal; The Ricardian Socialists, 1911. Chap. V, VI.) を批判するために右の詳細な引用をおこなったようであるが (Jolliffe. p. 4, note 3.)、これだけではローウェンソールの見解あるが (Jolliffe. p. 4, note 3.)、これだけではローウェンソールの見解の批判として不充分である。リカードとリカード派社会主義との関係は後者の性格規定にとって一つの重要な問題である。 さしあ た り以下を参照。 P. H. Douglas: Smith's theory of value and distribution. J. M. Clark and others; Adam Smith, 1776-1926, 1928. pp. 95-103. G. Adler; Ricardo und der ältere englische Sozialismus. Verteidigung der Arbeit gegen die Ansprüche des Kapitals von T. Hodgskin. übers. von F. Kaffel. 1909. SS. 9-23.
- のタムスン的綜合」とものべている。(p. 118.)133.) また「反資本主義の経済学とオーウェン主義者の協同体学説とン主義プラスホジスキン」とのべている。(G. D. H. Cole; op. cit., p. 10) コールはブレイの『労働の不当な処遇』を特徴づけて「オーウェ10) コールはブレイの『労働の不当な処遇』を特徴づけて「オーウェ
- (11) Working Man's Advocate. Vol. IX. No. 23. May 3, 1873. The Word. Vol. II. No. 5. Sept. 1873. Bray Material. Vol. I. Item. 23. なおこの論説でブレイはさらに、Macauley, Brougham, Oastler, Cobbett. O'Connor についても評言をのべている。Vol. III. Item 10. におけるイングリスの覚書参照。
- (A) Steps to Reform (MS). 1894, Bray Material Vol. III Item. 9. Jolliffe. p. 13.
- (四) G.D.H. Cole; op. cit., p. 130. 长华 135, 186-7.
- (至) Bray Material. Vol. I. Item. 18. Inglis. pp. 15-16.

初期マルクス研究におけるひとつの問題

[1846-1848], 1960) における"真正社会主義』の解釈について Ausarbeitung der politischen Richtlinien für die deutschen Kommunisten für die deutschen Kommunisten [1846-1848], 1960) における"真正社会主義』の解釈について

田

鼎

われ邦訳されつつあるのは注目すべきであろう。 出・カーのユニークな研究もしくはリャザノフの簡潔な伝記などを はじめ、すぐれた著作が少くない。そして今もなお多くの伝記が書 はじめ、すぐれた著作が少くない。そして今もなお多くの伝記が書 いれ、それらを加えるならば、マルクス研究は実に枚挙にいとまな かれ、それらを加えるならば、マルクス研究は実に枚挙にいとまな しといわなければならない。最近ではとくに、一八四八年の革命を 頂点とするいわゆる初期マルクスにかんする業績がつぎつぎとあら われ邦訳されつつあるのは注目すべきであろう。

初期マルクスもしくはマルクス主義の定礎期ともいうべき一八四 を関面の追求がまずあげられねばならない。 を関面の追求がまずあげられねばならない。 な側面の追求がまずあげられねばならない。 な側面の追求がまずあげられねばならない。

初期マルクス研究におけるひとつの問題

自性が主張されることもある。……体系そのものをきずきあげるこ 幹とも なりえたのではないだろうか」とのべておられる。かもその意味で、マルクスにおいても初期の諸論文が考察の焦点と の意図が求められる場合には、しばしばそのような否定的衝動のな とではなく、むしろ既成の体系を否定する発想のなかに積極的構成 えずそれを否定し、否定するという行為そのもののなかで思想の独 れない場合でも、 ないのかもしれない。ところが、体系の発想になんらの独創がみら ·ť. 学=哲学手稿」にあらわれたマルクスの疎外論にかんするマルクー 研究する上において新しい光を投じたものであったが、その意味で の重要性について「およそ一つの哲学体系をきずきあげようとする かにその後の思想と行動をみちびく論理の糸がみいだされる。 い。本書のあとがきで、訳者のひとり良知氏は、 の論稿が良知力、池田優三両氏によって邦訳されたことは喜ばし この初期マルクス主義の重要な理論的結晶ともいうべき「経済 哲学手稿の一九三二年における発表は、 知のように、 いうべき史的唯物論の源泉やヘーゲルのマルクスへの影響を 論理の発想のみちすじに真の独創などというものはあり 先行する体系をそのまま継承するのではなく、 一八四四年に書かれたと想われるマルクスの経済 マルクス主義体系の根 初期マルクス研究 あた た え

だが、しかしこうした既成の思想体系との対決そして否定というマスの思想的展開そのものにほかならなかったことを道破しているの威と価値体系にたいする挑戦、苦闘そして克服の過程こそ、マルクこの表現は、若きマルクスにみられる強烈な自己主張と既存の権

ルクスの行動は、良知氏のいうように、必ずしも否定的衝動としていり、あられたのであるというべきである。 ない ま命的民主主義者のそれへ、そしてさらに革命的共産主義への途を ちむなかで、他方、それと密接不離の関係において革命家として社 歩むなかで、他方、それと密接不離の関係において革命家として社 た。従ってその意味においては、あたかも衝動的とも映るマルクス た。従ってその意味においては、あたかも衝動的とも映るマルクス た。従ってその意味においては、あたかも衝動的とも吹るマルクス た。従ってその意味においては、あたかも衝動としての立場から ない 一方において 地方、 とれと密接不離の関係において革命家として社 か撃は、革命的実践の正しい認識に違背するあらゆるイデオロギー なかまられたのであるというべきである。

当時の《イデオローグ》との間に闘わされた論争を通じて跡づけ、という事件、諸条件と関連させつつ考察させたもののなかに、ルウェーヴルの業績がある。彼が本書のなかで意図したところのものフェーヴルの業績がある。彼が本書のなかで意図したところのものは、必ずしも「初期マルクス」の時代に限定されてはいないが、著書の問題意識はその思想的な立場にもかかわらず、まことに示唆に富む。ルフェーヴルが、その著「カール・マルクスが生き且つ関与した歴書の問題意識はその思想的な立場にもかかわらず、まことに示唆に富む。ルフェーヴルが、その著「カール・マルクスの思想を認識するために」を書くにあたって狙いとして定めたところを要約してみると、

学的、哲学的、道徳的、政治的な側面をその総体において解明するうに、複雑で相互に連関した側面に非常に富んでいる。学説の経済() マルクスの思想とその学説は、のちに次第に深くみていくよ

ح ک

- ったのである。 は、たえず、既成の理論的、政治的命題に抗して、明確にされていは、イデオロギー闘争、政治闘争の過程で形成された。彼らの思想は、イデオロギー闘争、政治闘争の過程で形成された。彼らの思想 そ の も の見を、「概論」のかたちで示さなかったこと。マルクスならびにエンし、マルクスの思想が把握しがたいのは、彼が、自己の理論的発
- あったばかりでなく、展開しつつある思想でもあった。動しつつある思想――そしてその闘争の過程で生まれた思想――で()マルクスおよびエンゲルスの思想は、ただたんに、闘争し行

ることは明らかである。 この場合とくに注目すべきことは、初期の重要な労作、一八四四 との場合とくに注目すべきことは、初期の重要な労作、一八四四 との場合とくに注目すべきことは、初期の重要な労作、一八四四 との場合とくに注目すべきことは、初期の重要な労作、一八四四

ーディの「科学的社会主義のフランス的源泉」のようなユニークなとして、ハロルド・ラスキの「共産党宣言への歴史的序説」やガロルクの「初期マルクス経済学説の形成」やコルニュの研究をはじめられているものは、マルクス経済学説の体系を概観したローゼンべられらのほかに初期マルクスにかんする最近の研究としてよく知これらのほかに初期マルクスにかんする最近の研究としてよく知

いまこれらをひとつひとつ検討する余裕はない。郎氏の「ミルとマルクス」(ミネルヴァ書房)があるが、われわれはものもあり、またわが国における注目すべき研究としては、杉原四

ちが 握しそしてそのなかで正しい闘いのすすめ方を研究していたかとい ٤ う点である。すなわち革命の性格の規定が実に正しかったというこ あったさまざまな矛盾を、彼らがいかに冷静に観察し、 すなわち一八四八年の革命の前夜におけるヨー 義を鞭うつ。口つぎに重要なことは革命の戦術的な問題であろう。 の統一への精進は、現実に理論だけを研究し、実践にふみきれないと熱情とによって克服されたのであろうが、こうした思索と実践と インテリゲンチャとしてのわれわれの弱さを暴露し、その日和見主 代におけるはげしい超人的な勉強と討論、実践へのひたむきな努力 悩を、彼らがいかに克服したか、この思想的な苦悶と相剋は青年時 る。その場合、問題は社会科学研究に専心する者の基本的態度、そ の主体性にかかわるものである。〇革命的共産主義者となるまでの 人間形成における苦闘と思想的変革の過程-うした問題をたえず想い浮かべずにはおられないという こ と で あ はどのような姿勢でこの問題にとりくまねばならないか、 ただひとつ、 - においてマルクスとエンゲルスが遭遇したさまざまな矛盾と懊 イギリス、フランスそしてドイツなどの国々における諸条件 何故にそれが研究の焦点となるのか、そしてさらに、 の正確な分析は、 今日われわれは何故に初期マルクスに 注目 する 公式的な断定やドグマの横行にたいするき -初期マルクスの時期 ロッパが直面し 具体的に把 われわれ およそこ ろろ Ø

初期マルクス研究におけるひとつの問題

ある。わめて有効な武器であり、現代のわれわれをきびしく戒めるものが

れねばならないであろう。八四八年の革命を中心とする時期と現代との比較が改めて問題とさへ四八年の革命を中心とする時期と現代との比較が改めて問題とされればならないである。

の前文には、つぎのように書かれている。ソ連邦共産党第二二回大会に上程され、採択された共産党新綱領

「百年以上も前に、『共産党宣言』の中において、プロレタリアー「百年以上も前に、『共産党宣言』の中において、プロレタリアーら、が野蛮された人々が古い世界に立ち向って突撃を開始した。パリ・コンミューン、十月革命、中国その他ヨーロッパおよびアジリ・コンミューン、十月革命、中国その他ヨーロッパおよびアジリ・コンミューン、十月革命、中国その他ヨーロッパおよびアジリ・コンミューン、十月革命、中国その他ヨーロッパおよびアジアの一連の国々においては、国民の幸福をめざす闘士たちの血に想らに今日までにおいては、国民の幸福をめざす闘士たちの血にある。大変主義は、すでに今日の偉大な勢力となり、地球上の宏大な地地のされた巨大な道標と輝かしい勝利と一時的敗北を経てきた道標と海かしい勝利と一時的敗北を経てきた道標と海かしい勝利と一時的敗北を経てきた道標が踏破されてきたが、かつては単なる幻影としかみられなかっためざす世界労働者階級の英雄的闘争の重要な歴史的道標である。対応であるれた巨大な道標と輝かしい勝利と一時的敗北を経てきた道標とよれた巨大な道標と輝かしい勝利と一時的敗北を経てきた道標が、対応であるれてきたが、かつては単なる幻影としかみられなかったが、対応である。(傍点は訳文域にわたって創られつつある社会となったのである。(傍点は訳文太字)。

百年前の幻影が偉大な歴史的現実となり、世界の趨勢を大きく動かしつつあることを今日何人も疑う者はいないが、しかし問題は、水が予測しつつあった社会主義革命への展望、そしてその途上に横石数十年前の一八四八年革命の前夜において、マルクスとエンゲルスが予測しつつあった社会主義革命への展望、そしてその途上に横下解決されもしくは課題として残されているかという 点 で あろが。世界史的な視点に立つならば、一八四八年革命の前夜において、マルクスとエンゲルのがまざまな問題は、共産主義体制が世界全人口の過半を包括し、そのまざまな問題は、共産主義体制が世界全人口の過半を包括し、そのまざまな問題は、共産主義体制が世界全人口の過半を包括し、そのまざまな問題は、共産主義体制が世界全人口の過半を包括し、そのまざまな問題は、共産主義体制が世界全人口の過半を包括し、そのおり、帝国主義が体制的な危機に頻するに応じて鋭くあらわれざるをえないという客観的事実である。

タリア 間の階級闘争というもっとも基本的な矛盾のほかに、ブルジョアジ 展に照応するものであったが、そこにはまた"宣言"がもっとも鮮 明に提起しているように、ブルジョアジーとプロレタリアー らせた共産党宣言の出現は、産業資本の確立、従って近代的プロレ て特徴づけられる の中産階級や独立小生産者層の没落といういちじるし もなうプロレタリアー 一八四八年という年のしめる重要性 より具体的にいうならば、ヨーロッパ資本主義発展史上において もしくは小ブルジョアジー の成熟、労働組合の逞しい成長そして社会主義運動の発 **ーである。前衛としての共産党の登場をつげ知** トの階級的成立、そして派生的な問題として の社会主義的運動における関係におい 産業資本の確立とこれにと い現象によっ トとの

ったが、 オロギー ばわれわれを汚染しようとする小市民的・日和見主義にもっともよ く妥当することを認識する必要があろう。 動的・小生産者イデオロギーにたいして一般にむけられたものであ 試みられた徹底的な批判は、一八四八年のブルショア革命以前の反 スとエンゲルスの著作を熟読するならば、真正社会主義にたいして 階級の運動にさまざまな影響や陰影を投じつつあるもろもろのイデ スを学ぶことによって得られる思想は、現在の時点において労働者 ることに注がれたのであって、これこそ初期マ 動に影響をあたえていた。マルクスとエンゲルスの努力は何よりも とも重要な課題を形成していた。だとすればわれわれが初期マルク これらの社会主義の階級的基礎を明らかにし、これらを批判克服す 判的=空想的社会主義」などの諸流派が混然として労働者階級の運 「封建的社会主義、 保守的社会主義またはブルショア社会主義、 て生み出される反動的社会主義としての「小ブルジョア社会主義」、 それは同時に現在のわれわれをとりまく、 の役割を正しく評価することでなければならない。 ルクスにおけるもっ そしてともすれ マル 批 1

動と革命的政治運動としてのチャーティスト運動が展開され、ブルしては、民主主義、民族主義をして社会主義の問題がある。しばしい不均等現象が目立ち、従ってイギリスのように産業資本の基礎にい不均等現象が目立ち、従ってイギリスのように産業資本の基礎にいては、民主主義、民族主義をして社会主義の問題がある。しばしては、民主主義、民族主義をして社会主義の問題がある。しばし

部の革命的な小生産者をひきつけつつあったというのが現実であ な課題として急進的な知識人、階級的に目ざめた労働者、そして一 一とを求める民主・民族主義の闘いが、社会主義よりもむしろ緊急 におくれたイタリア、ロシアそしてポーランドのような国々にお 価 形でしか進んでいない国とでは、来るべき革命の性格につ 的な国内市場の形成も、 関係が根強く残存し、小国分立という絶対主義的残滓によって統一 は、反動的な絶対主義にたいするはげしい闘い、民族の独立と統 懸隔があったことは否定できない。いわんやドイツよりもはるか ョア民主主義革命の成果を布石として、 その革命を指導する階級の主体的な力の問題などで、 れつつあった国と、ドイツにみられるように、封建的な生産諸 わずかに関税同盟というきわめて不充分な 社会主義革命への展望が 超えがた いての評

八四八年の革命にたいする評価は、ブルショア革命の急速な実現といらずも臨まざる定えなかったものは、資本主義発展の不均等の結めらずも臨まざる定えなかったものは、資本主義発展の不均等の結めらずも臨まざる定えなかったものは、資本主義発展の不均等の結果としての革命的な諸条件の各国におけるいちじるしい差異という関を実現することを第一段階として、これを通じてつぎに来らんとでする支配階級としてのブルショアジーにたいするプロレタリアートの関争の諸条件がつくり出されるとしたのである。このように、これの関争の諸条件がつくり出されるとしたのである。このように、これらずも臨まざる定えなかったものは、資本主義発展の不均等の結果としての単の諸条件がつくり出されるとしたのである。このように、これらずも臨まざる定えなかったものは、資本主義発展の不均等の結めらずも臨まざる定えなかったものは、資本主義発展の不均等の結めらずもによりに、これらずもによりに、これらは、

あった。革命をできるだけ徹底的におしすすめることにおかれたのは当然であって、従って革命的な運動の当面の目標は、来るべきブルジョアあって、びって革命の勝利のための条件をつくり出すということでをプロレタリア革命の勝利のための条件をつくり出すということで

一八四八年以前のマルクスとエンゲルスがドイツにおける客観的ならなかった。一八四八年以前のマルクスとエンゲルスがドイツにおける客観的ならなかった。

ではあれ、この問題が拡大された形において現われつつあるではな われわれの世界においても必ずしも解決しつくされたとはいえな る二人の偉人が百数十年前に深刻に悩み且つ考えた問題は、現在の い。いなそれどころか、現代の世界はまさに、異なれる姿にお T 形成期において、 主義革命の切迫という事態の交錯を時代的背景とするマルクス主義 おける資本主義発展の不均等という歴史的現実と、ブルジョア民主 民族主義相互の関係があげられねばならない。当時のヨーロッパに るならば、もっとも重要な問題として、民主主義、社会主義そして ところは、きわめて深く且つ多岐にわたるのであるが、再び強調す か。社会主義革命、 以上のように、初期マルクス主義研究が現在のわれわれに訓える いったか。 かつてマルクスとエンゲルスという思想と実践におけ 彼らがいかにしてこの問題を提起しそして解決し ブルジョア民主主義革命そして民族主義革命 いて

ほかはない。

現実にたいする深刻な認識なくしては、全く観念的遊戯におちいるの「初期マルクス研究」への志向は、純粋に知的な理論的なインタの「初期マルクス研究」への志向は、純粋に知的な理論的なインタの「表 ことは何人も認めざるをえない。だとすれば、われわれの巨大な流れがいまもなお大きな問題としてわれわれの世界を動かの巨大な流れがいまもなお大きな問題としてわれわれの世界を動か

- 年、二巻。 年、二巻。
- (2) Karl Vorländer; Karl Marx, sein Leben und sein Werk, 1929. (3) Edward Hallet Carr, Karl Marx—A Study in Fanaticism, 1934. 石上良平訳「カール・マルクス」(未来社) 一九五六年。
- (4) Rjazanow; Karl Marx und Friedrich Engels.
- (5) Georg Lukács; Zur philosophischen Entwicklung des jungen Marx (1840-1844) (Deutsche Zeitschrift für Philosophie. 2. 2. Jahrgang. 1954. SS. 288-343) 平井俊彦訳「若きマルクス」(ミネルヴァ書房) 一九五八年。
- (Φ) Herbert Marcuse; Neue Quellen zur Grundlegung des historischen Materialismus, in; Die Gesellschaft. 2. Bd. 1932.

Über die philosophischen Grundlagen der wirtschaftwissenschaftlichen Arbeitsbegriffs, in; Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik. 69. Bd. 1933.

マルクーゼ著、良知力、池田優三共訳「初期マルクス研究――『経

済学=哲学手稿』における疎外論」(未来社)一九六一年。

- ついて」を参照。 7) 前掲書の巻末に掲げられた良知力氏の論稿「初期マルクス解釈に
- (8) H. Lefebvre; Pour connaitre la pense de Karl Marx, 吉田静一訳「カール・マルクス――その思想形成史」(ミネルヴァ書房) 一九六〇年。
- から除名されたといわれる(「訳者あとがき」より)。(9) ルフェーヴルは、ハンガリー事件を契機として、フランス共産党
- 10) ルフェーヴル、前掲書五四―五九頁。
- 書店)昭和二八年。 | 11) ローゼンベルク、副島種典訳 「マルクス経済学説の形成」(大月11) ローゼンベルク、副島種典訳 「マルクス経済学説の形成」(大月
- 産党宣言への歴史的序説」(法政大学出版局)一九五〇年。 New Appreciation written for the Labour Party, 1948. 山村喬訳「共のででは、1948. 山村喬訳「共のででは、1948. 山村香訳「共のででは、1948. 山村香訳「共のででは、1948. 山村香訳「共のででは、1948. 1948. 1948. 1948. 1948. 1948. 1949.
- (3) Roger Garaudy; Les Sources Francaises du Socialisme Scienti-fique, 1949. 平田清明訳「近代フランス社会思想史」(ミネルヴァ書房)
- ウン ソ連共産党新綱領草案(経済評論九月号別冊附録三頁。)

=

der Revolution-Die Ausarbeitung der politischen Richtlinien für die

初期マルクス研究におけるひとつの問題

deutschen Kommunisten (1846-1848), 1960.) は、ベルリンのドイツ科学アカデミーの一般史研究叢書第七巻(Deutsche Akademie der Wissenschaften zur Berlin, Schriften des Instituts für Geschichte, Reihe I: ensa。 著者の「まえがき」によれば、この労作は、一九五七年秋、である。著者の「まえがき」によれば、この労作は、一九五七年秋、である。 著者の「まえがき」によれば、この労作は、一九五七年秋、世者は先頃、ドイツの社会運動史や社会思想史の研究をはじめしたものであるといわれる。

筆者は先頃、ドイツの社会運動史や社会思想史の研究をはじめて、とくにドイツ民主共和国の研究動向に注目する者のひとりであるが、その労作のおびただしい出版にもかかわらず、その内容はこるが、その労作のおびただしい出版にもかかわらず、その内容はこるが、その労作のおびただしい出版にもかかわらず、その内容はこる現状について批判的な態度を持してきた。こうしたなかにあっる現状について批判的な態度を持してきた。こうしたなかにあっる現状について批判的な態度を持してきた。こうしたなかにあっるフェルダーの著作は、きわめて実証を重んじ、極端に党派的なイデオロギー的な態度にたいする批判的精神によって貫かれているとデオロギー的な態度にたいする批判的精神によって貫かれていると

本書は、つぎのような内容から成っている。

第一章 序論。

第二章 前提。

者階級の政治の問題についての最初の分析(一八四六年)。第三章 ブリュッセルにおける共産主義通信委員会の建設と労働

第四章 一八四六年から一八四七年への移行と発端。

イツにおける来るべき革命の政治上の諸問題。 第五章 一八四七年の夏および秋の政治論的な関係において、ド

界六章 共産党宣言。

ようとしたかを示すものである。がどこにあるか、しかも著者がいかなる視点からこの問題に接近しがどこにあるか、しかも著者がいかなる視点からこの問題に接近し著者が序文のなかでのべているつぎのような文章は、本書の狙い

回願せしめ提起する一連の諸問題を日程にのせたのである。」 一一マルクスとエンゲルスが一八四八年に従った戦術および戦略を 労働者階級の闘争に、あらためて異常な重要性をあたえた。さらに 労働者階級の闘争に、あらためて異常な重要性をあたえた。さらに は、あらゆる資本主義諸国におけるこのような自由と権利のための 自由と権利とを絶滅しようとする帝国主義的ブルショアシーの努力 自由と権利とを絶滅しようとする帝国主義的ブルショアシーの努力

教訓的な役割を果すことになるであろう。 は、著者のいうように、今日のわれわれの実践的な意図にたいしてよびエンゲルスが一八四八年の革命を前にして提起した深刻な問題に対して、著書のいうように、今日のわれわれの実践的な意図にたいるとに、著者のいうように、今日のわれわれの実践的な意図にたいるとに、著者のいうように、今日のわれわれの実践的な意図にたいしては、著者のいうように、今日のわれわれの実践的な意図にたいるとには筆者がさきに強調したように、民主主義と社会主義そしこには筆者がさきに強調したように、民主主義と社会主義そし

あたかも峨々として聳立する高峰の如く容易に近づき難い印象をあ周知のように、マルクス主義体系に接近しようとすれば、それは

研究する必要がある。

がえして最後に革命的共産主義に至る職業的な革命家への途、お主義そして最後に革命的共産主義に至る職業的な革命家への途、お学的方向、そして最後に、 (ヨュング・ベーゲリアンから革命的民主学的方向、そして最後に、 (ヨュング・ベーゲリアンから革命的民主学的方向、そして最後に、 (ヨュング・ベーゲリアンから革命的民主学の方向、 たがもし初期マルクスに問題を限定するならば、 (十一八四四年、エンゲルスの国民経済学批判大綱にはじまる古典派経済学の研究する必要がある。

る。 の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動的な思想を攻撃するとともに、それらが生み出されたドイツ的基盤的な思想を攻撃するとともに、それらが生み出されたドイツ的基盤の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショア的・反動の性格とその諸条件に科学的な検討を怠った小ブルショアの基盤を明られたドイツの基盤を明られたが、アイツの状勢を把握している点で注目に値でいする熾烈なイデオロギー闘争を高く評価している点で注目に値でいする熾烈なイデオロギー闘争を高く評価している点で注目に値でいする熾烈なイデオロギー闘争を高く評価している点で注目に値でいする熾烈なイデオロギー闘争を高く評価している点で注目に値でいする熾烈なイデオロギー闘争を高く評価している点で注目に値でいする。

ル・グリューン等の真正社会主義に注目し、これにたいする攻撃のマルクスとエンゲルスがウワイトリングの空想的社会主義とカー

ある。 難と克服とを、初期マルクス研究のなかでどのように位置づけてい るか、この点に焦点をしばることにしよう。 の真正社会主義を中心とする空想的反動思想にたいする仮借なき非 をして革命の正しい路線から逸脱せしめるものであるという認識で ョフジー革命の意義を全く無視した真正社会主義こそ、労働者階級 つつあったブルジョアジーにたいして反動的な攻撃を行い、ブルジ **義、そして絶対主義封建勢力にたいして革命的な勢力として登場し** リァートの力を、正しく評価することができなかった空想的社会主 において偉大な役割を果す能力と使命とをもつドイツ・プロレタ 火ぶたをきったのは、つぎのような事情によっていた。すなわち、 エンゲルスが「ドイツ農民戦争」 、べての国々と同じように『革命的伝統』を誇ることのできるドイ 従って、来るべきブルショア革命とそれにつづく社会主義革命 従って本稿においては、著者が、マルクスおよびエンゲルス の序文にのべているように、他の

本書者はつぎのような一般的な前提の上に立っている。一八四八年のドイツにおけるブルジョア革命の世界史的意義――一九〇五年のロシスツにおけるブルジョア革命の世界史的意義――一九〇五年のロシの指導をひきうけなければならなかった。すなわち基本的にはブーと一八四八年のドイツとの比較――ドイツの労働者階級は、革命の役割をひきうけなければならなかった。すなわち基本的にはブーンにおけるブルジョア革命の世界史的意義――一九〇五年のロシの指導をひきうけなければならなかった。すなわち基本的にはブールジョアジーと敵対関係にありながらも、封建的・絶対主義勢力には前のではかった。すなわち基本的にはブールジョアジーと敵対関係にありながらも、封建的・絶対主義勢力には前導をひきらけなければならなかった。すなわち基本的にはブールジョアジーと敵対関係にありながらも、封建的・絶対主義勢力によっていたが一人ではある。一八四八年を表達したがでは、一人四八年を表達しいたが、一人四八年を表達したが、一人四八年を表達した。

ている。 過程を説明し、それによってその階級的本質を明らかにしようとし エンゲルスの真正社会主義の否定を通じての自己の哲学の体系化の ドイツにおける一般的前提の上に立って、著者は、マルクスおよび 転化、しかしドイツの空想的社会主義には、偉大なフランスのユ トピアンの独創性が欠如していた。以上のような一八四八年以前の 流、イイ)フランスの空想的社会主義と共産主義の影響、仰ユング・へ による職人的共産主義(Handwerker-Kommunismus)=ウァイトリン 働者からなる小さな社会主義団体「正義者同盟」のフランス社会主 ーゲリアン グの共産主義の克服、 義=四季協会との結びつき。イギリスのチャーティスト運動の影響 動の左派を形成していた。四フランス革命の経験、主として家内労 うと努力し、その限りにおいて、一般的なブルショアシーの反対運 階級、広はんな手工業者の層。彼らはツンフト的な強制から逃れよ をえないプロレタリアート。闫政治の動向を左右した都市の小市民 憲的 ("liberal und konstitutionell") という進歩的側面を評価せざる たいしては、ブルショアシーの、革命的ではないが自由主義的・立 ーフォイエルバッハの唯物論から空想的社会主義への **岡ドイツにおける空想的社会主義の二つの潮**

プロレタリアート・反ブルジョアジーとして特徴づけられる。て没落を余儀なくされるとすれば、その階層のイデオロギーは、反的基礎を保有し、しかも資本主義が次第に発展してゆく過程におい都市における中小市民階級が政治の動向を支配するほど根強い階級都本主義的発展のおくれたドイツにおいては、すでにみたように

初期マルクス研究におけるひとつの問題

を含。 著者はつぎのように評価する。真正社会主義者は、プロレタリア 下的な権利と自由のための闘いにたいして反動的な態度をとる。問 更は、このグループが、文筆上の小グループであり、組織に欠け、 題は、このグループが、文筆上の小グループであり、組織に欠け、 のリーゲが、パリでは何もなかったにもかかわらず、一八四五 のリーゲが、パリではグリュンが影響力をもっていたということで のリーゲが、パリではグリュンが影響力をもっていたということで のリーゲが、パリではグリュンが影響力をもっていたということで のように評価する。真正社会主義者は、プロレタリア ある。

って正義者同盟を科学的社会主義の拠点たらしめることにあった。 五年から四六年にかけてのマルクスおよびエンゲルスの活動は、一 時に、他方真正社会主義の小ブルジョア的性格を批判し、それによ 識を反映するものとして根強い影響力をもっていた。 思想を浸透せしめようとした。そこでドイツにおける社会主義思想 争をおこない、正義者同盟の中央執行部に、科学的社会主義の基本的 の二つの流れとしてのウァイトリングの共産主義と真正社会主義と 共産主義通信委員会(Kommunistische Korrespondenz Komitee)を結成 トリング しかし著者も指摘しているように、マルクスとエンゲルスのウァ 一八四六年のはじめ、マルクスとエンゲルスは、ブリュッセルで その両者を同一の次元において行われたのではなかった。 これによって空想的社会主義にたいする果敢なイデオロギー 前者は手工業職人を基盤とし、後者は都市の中小市民階級の意 てウァイトリングの共産主義の空想的性格を暴露すると同 および真正社会主義者への徹底的なイデオロギー闘争 従って一八四 ウァ 鬪

イトリングの共産主義は、ブランキの一揆主義よりもはるかに進んイトリングの共産主義は、ブランキの一揆主義よりもはるかに進んイトリングの共産主義は、ブランキの一揆主義よりもはるかに進んイトリングの共産主義は、ブランキの一揆主義よりもはるかに進んイトリングの共産主義は、ブランキの一揆主義よりもはるかに進んイトリングの共産主義は、ブランキの一揆主義よりもはるかに進ん

一八四六年、正義者同盟内部において、革命についてのマルクスとエンゲルスは、ウアイトリングとも密接な関係にあったクリーで、二つの原則的に対立する世界観のさけがたい闘争が明らかになった。ここでマルクスとエンゲルスは、ウアイトリングの共産主義った。ここでマルクスとエンゲルスは、ウアイトリングの共産主義った。ここでマルクスとエンゲルスは、ウアイトリングの共産主義った。ここでマルクスとエンゲルスは、ウアイトリングの共産主義でいわれ、いわゆるアンネンコフの手記によってその模様が紹介されているが、同時に当時やはり正義者同盟のなかで、真正社会においているが、同時に当時やはり正義者同盟のなかで、真正社会においているが、同時に当時やはり正義者同盟のなかで、真正社会においたが、同時に当時やはり正義者同盟のなかで、真正社会においているが、同時に当時やはり正義者同盟のなかで、真正社会においているが、同時に当時やはり正義者同盟のなかで、真正社会においているが、同時に当時やはり正義者同盟のなかで、真正社会においているが、同時に当時やはり正義者同盟のなかで、真正社会に対しているが、日本のでは、中では、日本のでは、中では、中では、日本のでは、中では、日本のは、日本のでは、日本のは、日本のでは、日本のは、日本のでは、日本のでは、日本の

働者階級の政治目標にかんする基本的な思想を明らにするにとどまた。彼らのクリーゲの批判を通じての真正社会主義への攻撃は、労け、アメリカ合衆国における正義者同盟の卓越した 代表者 で あっ著者によれば、クリーゲは、ドイツにおいてある程度の尊敬をう

(4) か濃厚にうかがうことができたからではなかろうか。 (4) が濃厚にうかがうことができたからではなかろうか。 か濃厚にうかがうことができたからではなかろうか。 か濃厚にうかがうことができたからではなかろうか。 か濃厚にうかがうことができたからではなかろうか。 (4) かった民的似而非社会主義の要求にたいするその関係を暴らず、その小市民的似而非社会主義の要求にたいするその関係を暴らず、その小市民的似而非社会主義の要求にたいするその関係を暴らず、その小市民的似而非社会主義の要求にたいするその関係を暴らず、その小市民的似而非社会主義の要求にたいするその関係を暴らず、その小市民的似而非社会主義的要求にたいするその関係を暴らず、その小市民的似而非社会主義の要求にたいするその関係を暴らず、その小市民的似而非社会主義的要求にたいするその関係を暴らず、その小市民的似而非社会主義的要求にたいするその関係を暴いが、同時にこれはフランスの社会主義、イギリスの古典派経済学とならんで、マルクス主義の三つの源泉、三つの構成要素のひとつとなられている。 はいが、同時にこれはフランスの社会主義の要求にたいするその関係を暴い。

最初の論文のなかでつぎのようにのべている。における共産主義の急速な進展」という論文を書いているが、そのワールド』の一八四四年第二五号、第三七号、第四六号に、「ドイツェンゲルスは、イギリスの社会主義の新聞『ザ・ニュー・モラル・

成するために招聘されている。この計画は、さまざまの場所で討りつつある。また事実、われわれの一人は、オーエンやフーリエなどの計画を参考にして、またアメリカの共同社会でえられた経りつつある。また事実、われわれドイツの理論家たちは、実行家とな「ご存じのとおり、われわれドイツの理論家たちは、実行家とな

グ博士、 説く数篇の詩もはいっている……。」(5)。(ちわわり、一巻の政治詩を出版したが、そのなかには社会主義を る。これらの人々のほかに、亡命するすべてのドイツ詩人のうち ゲルス、 でもっとも傑出したハインリッヒ・ハイネが、われわれの隊伍 のカー 義者の間でもっとも活動的な文筆家はつぎの人々である。在パリ パリのカー ル・マルクス博士、ケルン在住のモーゼス・ヘス博士、 ケルンのヘルマン・ピュットマン博士その他数人であ ウェストファーレンのレーダ市のオット 修正をくわえられて印刷されるであろう。ドイツ社会主 グリュン博士、 在バルメンのフリードリヒ・エン し・リュー ニン 在 K

会主義者たち」にもっともよくあらわれている。この二つの論文の状勢がそれほど進展していなかったためと、空想的社会主義者にたいするマルクス・エンゲルスの批判が充分でなかったことが考えられる。やがて「ドイツ・イデオロギー」において、ユング・ヘーゲれる。やがて「ドイツ・イデオロギー」において、ユング・ヘーゲルスの批判を開始するのだが、それはエンゲルスによる二つの論的性格を看破したマルクスとエンゲルスは真正社会主義にたいする徹底的な批判を開始するのだが、それはエンゲルスによる二つの論的性格を看破したマルクスとエンゲルスは真正社会主義にたいするの性格を看破したマルクスとエンゲルスは真正社会主義とたいするで、カーバルの各号に掲載された「詩と散文におけるドイツにおける革命的で、「真正」社会主義者についての二論文、すなわち一八四七年のプリュッセル・ドイツ語新聞第七三、九三、九四、九五、九六、九七、九八の各号に掲載された「詩と散文におけるドイツにおける革命的非難はみられないのだが、これは一八四四年ドイツにおける革命的非難はみられている。この二つの論文ので、「「イツ・イデオロギー」第二巻の直接の継続としての「真正社会主義者たち」というにはいる。

期マルクス研究におけるひとつの問題

研究のなかで、オット 判し、その歴史的役割を論評しているが、著者フェルダーは、この 単純な段階を「単式」(mode simple)と名づけるとすれば)の理論を批 社会主義の性格の暴露を行なっていることを強調しているのは興味 義」=複式の(mode composé)真正社会主義(真正社会主義のしごく を無視していることを非難している。一方「真正社会主義者たち」 場合、ドイツ市民の代表としてのゲーテのなかにひそむ小市民・ロ ユーニング では、真正社会主義の機関紙「ウェストファリッシェン・ダンフボ 最初の方は、資本主義発展のおくれたドイ マン的性格を重視し、そのブルジョア的・コスモポリタン的精神 (Westphalischen Damphboot)とその編集責任者オットー (Otto Lüning) のいわゆる「ウェストファーレン社会主 ー・リューニングの批判と克服によって真正 ツの小市民の代表者カー .

めた。とくに、一八四六年早春ブリュッセルにおいてマルクス、エスにすようになってから、彼らはこの新聞に重大な関心を抱きはじの重要性」などを盗用することによって労働者階級の運動に影響を階級の状態』から「プロレタリアートの生成と発展のための大工業階級の状態」から「プロレタリアートの生成と発展のための大工業階級の状態」から「プロレタリアートが、真正社会主義の機関ウェストファリッシェン・ダンフボートが、真正社会主義の機関

たえる思想的影響を無視するわけにはゆかなくなった。 がら合法マルクス主義者としての相貌をも呈するリューニングがあけなかったけれども、しかし彼は真正社会主義者としてとどまりなけなかったけれども、しかし彼は真正社会主義者としてとどまりないのでです。 しんことによって彼らの同志としての活躍をはじめた詩人ンゲルスと知り合い、革命的な世界観に入り、リューニングへの批シゲルスと知り合い、革命的な世界観に入り、リューニングへの批

ブルジョ と考えられる。 クス、エンゲルスの思想と類似し、 の必然性を提起し、ブルジョア的な議会制度の利用の必要性を説き、 たとえば政治的精神的反動、封建主義と官僚主義に対する共同闘争 真正社会主義と単純に結びつけようとしたところに問題があった。 ア的な権利と自由することの必要性を力説するウァイデマイアの それは、議会制度の不可避性を強調し、働く大衆のためにプルショ 的反動的思想の側面をもつという二重的性格をもっていた。従って 発展を回避して、 義者を想い出させるのだが、他方それは、ブルジョア的・資本家的 ルクス主義理解からその思想形成を負いながら、マルクス主義を、 ようとする点で、"ナロードニキー" ("Volkstümler") のような復古 リューニングは、社会主義者と議会主義者が共通の目的のために、 シアのマルクス トの闘争がはじまると主張した点は、きわめて独創的で、マルジョアジーが勝利をしめたのちは、彼らにたいするプロレタリ ニングの政治的立場、著者によれば、一方においてそれは 社会主義というものを小市民的基礎の上に実現し (8) 彼らに何程かの影響をあたえた

開かれたのである。 的民主的運動を推進した結果、一八四六年六月二三日選挙民大会が 極的に参加するという信条のもとに、ケルン市におけるブルジョア D'Ester) 等をして、正しい方針に副って運動することを指導した。 機の兆しが濃厚となったとき、これを積極的に援助し、 それが、 すなわちマルクスとエンゲルスは、共産主義者が民主主義運動に積 (Roland Daniel)、ビュルガース (Heinrich Bürgers)、デスター (Karl に一八四六年プロイセン絶対王政の土台をゆるがすほどの経済的危 のである。それゆえマルクスとエンゲルスは、プルショア階級が、 さなかったし、 階級意識も比較的進んだライン地方においてもつ重要な役割を見逃 にあらゆる非難や嘲笑そして皮肉をあびせているにもかかわらず、 れから学ぶことをも忘れなかった点は、注意を払う必要があろうの階級的基盤を暴露しながらも、絶えずそれとの闘争のなかで、 一八四〇年代のはじめ、自由主義的な運動を指導しようとし、とく から学ぶことをも忘れなかった点は、注意を払う必要があろう。 理論を淘冶したものであるとすれば、真正社会主義を非難し、そ と血みどろの闘いであり、それらの批判克服の過程を通じて独自 すでにのべたように、マルクスおよびエンゲルスの史的唯物論へ 産業が発展し、資本主義的生産が進み、プロレタリアー ユーニングの「ウェストファリッシェン・ダンフボート」 ウァイデマイアもこの点を意識してこれに寄稿した 既存の理論体系にたい する苛酷なまでに徹底的な批 ダニエル トの

の資料を駆使して詳細に描写しているので民主的・プルジョア的運著者は、ケルン市の市民大会の重要性を指摘し、その模様を当時

出をも期待すべきであるという見解に一致するものであった。 出をも期待すべきであるという見解に一致するものであった。 出をも期待すべきであるという見解に一致するものであった。 出をも期待すべきであるという見解に一致するものであった。 出をも期待すべきであるという見解に一致するものであった。 はなり高い階級の附属物ではなく、『真実の代表者』、すなわち彼らの中から代表を選ばなければならぬ」と提案し、とりわけ、ち彼らの中から代表を選ばなければならぬ」と提案し、とりわけ、ち彼らの中から代表を選ばなければならぬ」と提案し、とりわけ、ち彼らの中から代表を選ばなければならぬ」と提案し、とりわけ、「第三身分は、自らを代表するにとどまらず、選挙権をもたないすべての身分の当然の代表者である。なぜならば、前者の利益は後者であれた近いのであるから……」と強調したことは、マルクス、エッゲルスがブリュッセル共産主義通信委員会からダニエルズとビュルガーズにあてた手紙の内容、すなわち「イデオロギー的明確さこそ、現実のそして政治的に独立した活動のための活動を形づくると、別条件の欠如しているドイッにおいては、ブルジョア的な権利と自動における共産主義者の役割という観点から考察してみよう。注目動における共産主義者の役割という観点から考察してみよう。注目動における共産のであった。

のケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、こめ、今日われわれが革命的共産主義運動を考える場合に、大衆の日野協力は、「国民学校制度(、Volksschulwesen")の制定と要な努力目標(Hauptbestrebungen)として、「生活困窮者にたいする要が、今日われわれが革命的共産主義運動を考える場合に、大衆の日野的な利益と高度の政治的要求とを結びつけるという視点から、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の活動は研究するに値しよう。もちろん、このケルン市の共産主義の対象に対している。

あったが……。ことに反対するという反動勢力のまき返しがおこったことも事実でととに反対するという反動勢力のまき返しがおこったことも事実で性を問題にし、また選挙権のない一般大衆が、この会合に出席するれにたいしてブルジョア=自由主義者の少数派は、この会議の合法

ためにあらゆる努力を払った。 ボ、彼らの日常的な不満から出発してこれを組織的な反抗にかえる求、彼らの日常的な不満から出発してこれを組織的な反抗にかえるなめに共同して関うべきことを訴えたといわれ、大衆の初歩的な要のが必にあらゆる努力を出るとを訴えたといわれ、大衆の初歩的な要にめにあらゆる努力を払った。 ばらのおい難い はュルガースやデスターは民主的運動全体の方向を左右する決定 ビュルガースやデスターは民主的運動全体の方向を左右する決定

ルジョフジーから、左は共産主義者までをふくむ広汎な連合統一戦 集会では、激昂した大衆は、政府の民主的運動にたいする専制的弾 集会では、激昂した大衆は、政府の民主的運動にたいする専制的弾 生自由主義的なブルジョフジー、他方政府官僚も妥協的姿勢をとり、 であったが、しかしその民主戦線は充分に組織されてはおらず、 真正社会主義者の不徹底な態度は、市民軍をプロレタリアートおよ で民主主義者を中心とする民主戦線は充分に組織されてはおらず、 真正社会主義者の不徹底な態度は、市民軍をプロレタリアートおよ で民主主義者を中心とする民主戦線は充分に組織されてはおらず、 は、いうまでもなくこのケルンの大衆運動は、右は自由主義的なず た。いうまでもなくこのケルンの大衆運動は、右は自由主義的なず た。いうまでもなくこのケルンの大衆運動は、右は自由主義的なず ないった。 本語の市内から が民主主義者を中心とする民主勢力の軍隊とすることができなかった。 でいる。これは共産 のが、しかしその民主戦線は充分に組織されてはおらず、 は、一世線の勝 というまでもなくこのケルンの大衆運動は、右は自由主義的なず ないった。 できなかった。 できなかった。 本語の市内から できなかった。 本語の市内がら、 できなかった。 できなかった。 本語の市内がら、 できなかった。 できないった。 できなかった。 できなかった。 できない。 できない。

> も過言ではなかろう。 も過言ではなかろう。 を過言ではなかろう。 を過言ではなかろう。

- ける 若干の問題」(三田学会雑誌、昭和三六年七月号)参照。1) 揺稿「一八九〇年から一九一四年にかけてのドイツ労働運動にお
- (21) Herwig Förder; Marx und Engels am Vorabend der Revolution —Die Ausarbeitung der politischen Richtlinien für die deutschen Kommunisten (1846-1848), 1960, S. 44.
- (m) Förder; ebenda, S. 59.
- o) Marx und Engels, Werke, Bd. 2. S. 512. 邦訳五四〇頁

- (6) Ebenda, Bd. 4. SS. 240-241. 邦訳第四卷二五一頁
- (7) Förder; ebenda, S. 78.
- (∞) Ebenda; ebenda, S. 81.(Φ) Ebenda; S. 93.
- (9) Ebenda; S. 93. (10) Ebenda; S. 99 ff
- (1) Ebenda; S. 99 ff.
- (12) Ebenda: S. 96. (13) Ebenda: SS. 100-101
- (4) Ebenda; SS. 104-105.

Ξ

初期マルクス主義研究の課題は何か、この大きな問題を追究して、その半分も達しないうちに、すでに余白はつきてしまった。して、その半分も達しないうちに、すでに余白はつきてしまった。れ以後の著作に明らかである。それと同時にこれと密接不離の関係にあったプルードン主義への徹底的非難にもむけられたことは、それらがウァイトリングの思想とは別の意味において、労働者階級が来るべき一八四八年革命の意義を正しく評価するのをさまたげると来るべき一八四八年革命の意義を正しく評価するのをさまたげると来るべき一八四八年革命の意義を正しく評価するのをさまたげると来るべき一八四八年革命の意義を正しく評価するのをさまたげるとれらがウァイトリングの思想とは別の意味において、労働者階級がよるできてルードン主義への徹底的非難にもむけられたことは、それらがウァイトリングの思想とは別の意味において、労働者階級がれるがウァイトリングの思想が、フランス共産主義の理論的影響のもとにドイツ労働とないのではいいった。

者階級への影響において急速に色あせてしまったのに反し、真正社会主義者のイデオロギー(エンゲルスの言葉をかりれば、それが単式から複式になるに従って大胆になる!)が、さまざまな形で労働者階級の運動に影響力をもっていたのは、資本主義的発展のおくれたドイツの中小市民階級の間に、そのための肥沃な土壌が存在したからであった。だとすれば、マルクスとエンゲルスの言葉をかりれば、それが単式かあった。だとすれば、マルクスとエンゲルスがこれにたいして終始あった。だとすれば、マルクスとエンゲルスがこれにたいして終始あった。だとすれば、マルクスとエンゲルスが言葉をかりれば、それが単式から複様に今一度、真正社会主義者の性格を考察し、結論にかえるとし最後に今一度、真正社会主義者の性格を考察し、結論にかえるとし最後に今一度、真正社会主義者の性格を考察し、結論にかえるとしよう。

代表者である点は、真正社会主義と酷似しているといえよう。 というように、ロシアのナロードニキと似ていた。すなわち一方において封建的に、ロシアのナロードニキと似ていた。すなわち一方において封建的に、ロシアのナロードニキと似ていた。すなわち一方において封建的性を強調しない点は、 カランスおよびイギリスの市民的資本家的社会秩序を強制しない点は、 カランスおよびイギリスの市民的資本家的諸ので、ロシアのナロードニキと似ていた。すなわち一方において封建的代表者である点は、真正社会主義と酷似しているといえよう。 ひに アンアのナロードニキと似ていた。すなわち一方において封建的代表者である点は、真正社会主義と酷似しているといえよう。

た戦闘性の欠如がみられた。従ってそこにはブルジョア民主主義はいない都市の小市民層にあったところに、ナロードニキがもっていっていたが、真正社会主義者の運動の母胎は、農民ほど搾取されてかただ、ロシアにおいては、ナロードニキの運動は、広汎にして革ただ、ロシアにおいては、ナロードニキの運動は、広汎にして革

は、このような理由によっていたといえるであろう。 者にたいしてもっともはげしくおこ な わ れ た歴史的・理論的根拠ろうか。初期マルクスにおけるイデオロギー闘争が、真正社会主義絶対主義勢力に妥協する面を濃厚にもっていたといえるのではなか底流でしかありえず、階級闘争の激化と民主主義革命を前にして、

(1) Marx und Engels; Werke, Bd. 4. S. 251. 邦訳二六二頁。

N) Förder; ebenda, SS. 142-143.

――一九六二・一・一〇・深更

マルクシズムのフランス流入に関する一考察

ンュール・ゲードの思想的展開—

村

田

社会主義運動との関連の中にとらえようとするのが本稿の目的であて、ティエールによって「もう話されることもなく、すっかりかたで、ティエールによって「もう話されることもなく、すっかりかたよみがえった。マルクシズムのフランスへの流入を、この再興したよみがえった。と思われた社会主義運動に大きな意義をもったパリコンミュンが、血の海の中に葬りさられてより数 年を いで ずして ティエールによって「もう話されることするのが本稿の目的である。

スの思想は、フランスには全然普及していなかったと記している。 大妻の書簡集を編纂した E. Bottigelli も、コンミュン当時マルクとられていなかったとのべている。またエンゲルスとラファルグとしられていなかったとのべている。またエンゲルスとラファルグとしられていなかったとのべている。またエンゲルスとラファルグとしられていなかったとのべている。またエンゲルスとラファルグとしられていなかったとのべている。またエンゲルスとラファルグとしられていなかったとのべている。またエンゲルスとラファルグとしられていなかったとのでは、殆んどしられていなかったとのでは、殆んどしられていなかったと記している。 大妻の書簡集を編纂した E. Bottigelli も、コンミュン当時マルクスの思想は、フランスには全然普及していなかったと記している。

クシズムとの関連を再検討する意味をも含めて――見てゆきたい。ゲードの思想的展開を中心に――コンミュン以前のフランスとマル入されたのか。この問題をマルクス派の第一人者と目される、J・では何時頃、誰によって、どのようにマルクシズムはフランスに導

(注1) エンゲルスはマルクスの「フランスの内乱」ドイツ版第三版への序文で、コンミュン議員の少数のもののみがドイツ科学的社会主義をしってい たとして E. Vaillant をあげている (Der Bürgerkrieg in Frankreich, mit Einleitung und Ammerkungen von A. Conrady (1920) p. 130. 岩波文庫版「フランスの内乱」一六六頁)が、Ch. Longuet は Vaillant はまだブルードン主義者であったとして、このことを否定している。(同書一八〇頁)

- (2) A. Zévaès; De L'Introduction du Marxisme en France (1947) p. 49. 以片 Zévaès; De L'Introduction 心路方。
- (の) S. Bernstein; The Beginnings of Marxian Socialism in France (1933) p. 186. 凶片 Bernstein; The Beginnings 心路小。

マルクシズムのフランス流入に関する一考察

七七 (二八五)